

SADO Project Report

佐渡島の金山

探求プロジェクト

C班 馬場優梨愛 佐藤絢悟 刀根美月 吉田華耶

課題

教育旅行を通じた関係人口の創出 持続可能な地域資源の活かし方

佐渡金山という観光地が世界遺産登録という“きっかけ”があったにもかかわらず、世界遺産の価値が単なる観光資源としての表面的なものにとどまり、地域の中でその価値が十分に活かされず、文化継承や地域活性化につながっていない問題。

原因と視点



若者に向けた佐渡の 魅力の発信不足

調査によると・・・新潟市の小学校の半数しか佐渡の修学旅行にいておらず、観光客の半数が40歳以上だとわかった。



佐渡スペシャリスト ガイドの育成

今回のプロジェクトを通じガイド不足を実感。島民の意識をかえる経験を通じて、コミュニケーション力を高めることが目的



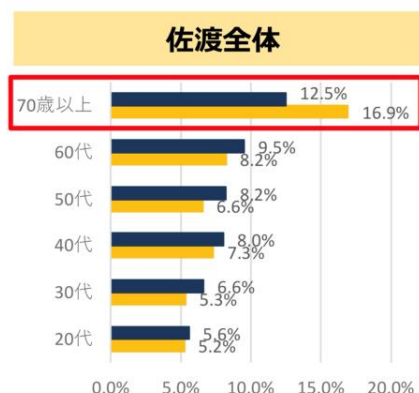
地域とともに 成長する仕組み

島だけでなく、新潟県全体で地域の大切な世界遺産を守っていくために、地域愛をはぐくみ関係人口をふやすこと

実証データ

観光客の年代とリピート率

①若者の佐渡の割合別来訪者数が少ない

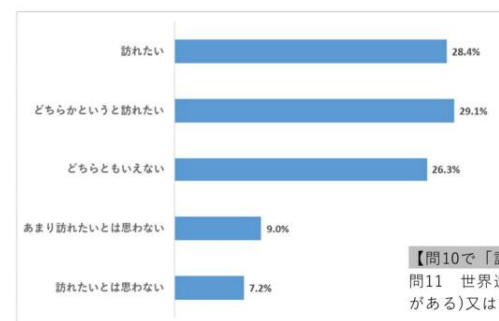


■ 男性(%) ■ 女性(%)

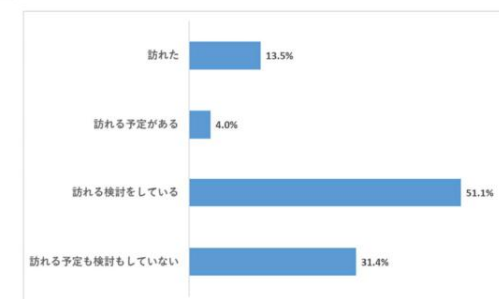
出典『佐渡島のビッグデータ分析』か佐渡観光交流機構

②実際に訪れたいという意識が低い(県内)

問10 世界遺産候補として推薦されたことをきっかけに、佐渡を訪れたいと思ったか



【問10で「訪れたい」「どちらかという訪れたい」を選択した方】
問11 世界遺産候補として推薦された後、佐渡を訪れた(訪れる予定がある)又は訪れる検討をしているか



出典『県民アンケート調査報告書「佐渡島の金山」についての県民意識調査』知事政策局広報公聴課

教育旅行による解決策

関係人口を増加させる

世界遺産を持続的に守るためには一過性の交流人口だけでなく、地域の継続的GDPの形成を担う関係人口の増加が不可欠だと考えた。世界遺産が単なる“記号”ではなく、地域社会の中核として、地域の経済や文化が未来へ持続的に受け継がれていける環境をつくることが理想である。また、機械ではできない自分の言葉で佐渡の魅力を発信できるガイドの育成は急務だと感じた。

この視点から「教育旅行を通じた関係人口の創出」の可能性という仮説を立てた。

01 イングリッシュキャンプ

現地での体験活動と目的

語学留学を世界遺産で！島そのものが世界遺産を作り上げている素晴らしい空間で語学研修を。四季折々の佐渡の魅力を感じることで、自分の言葉で佐渡を紹介できる島内外からガイドをめざす候補を育成する。

02 修学旅行

現地での体験活動と目的

従来の佐渡修学旅行にはない3段階ステップで学びを学びを深める「課題解決体験型」教育旅行。持続可能な世界遺産、環境遺産への学びを通じ、佐渡に関係し、応援してくれるファンを形成する。新潟県民なら一度は世界遺産を体験しよう！

English Camp の特色

語学研修

01 留学生と1泊2日佐渡の旅

留学生と英語を学びつつ佐渡を
観光し、現地で佐渡の魅力を感じる



02 チームでの体験（例）

海岸ごみ拾い

鉱石とり体験

金箔を使った和紙の装飾体験&夏の五七五を作る
夏野菜を収穫&囲炉裏やかまどを使って料理



03 どんな人に向いている？

英語を学びたい学生

英語で観光をしたい外国人

島内の地域住民

04 成果をどう活かすか

景観維持

海外からの興味

英語ガイド育成



旅行をきっかけに[ガイド]になりたい島内外の学生

佐渡育プログラムの特色

修学旅行

01 3段階の学び

「たび前」「たび中」「たび後」の3段階で設計されている。「たび前」では、出前授業やオンライン交流を通じて現地の学生とつながりをもつ。「たび中」では、一次・二次産業や文化体験を通じて、現地の人々と“顔の見える関係”を築く。そして「たび後」には、SNSでの情報発信を活用し、継続的に佐渡と関われる仕組みを用意。

03 実施中の工夫と柔軟な対応

事前の計画に沿って、商店街を歩き、店主に経営や商品、地域とのつながりを質問。観光地だけでなく生徒の興味を最優先し、地域の一次・二次・三次産業を肌で理解するグループ行動を実施。

02 佐渡島のすべてを活かす

今までの修学旅行と違うところはリアルに体験！すること。佐渡の一次産業や伝統文化を地元住民とふれあいながら体験し、子どもたちが地域課題にふれる機会を設け、地域の方と直接対話することで、児童は「観光客」ではなく「関わるひと」として佐渡を体験。聞いた話を整理・発表することで、他者の視点や地域への理解を深めることができる。

04 成果をどう活かすか

学生という肩書きがなくなった後も、インターンやボランティアとして再訪できる機会を設けたり、島外でのイベントへの参加を通じ、佐渡との関係を細く長く保てるようする。結果的に関係人口を増やすことにつながる

旅行をきっかけに[ガイド]になりたい島内外の学生

観光客、交流人口、関係人口の増加

教育旅行によって生まれる消費→遺産保全に！

考察

この提言は観光地と教育現場の架け橋となるだけでなく、参加者の中に「また行きたい」「誰かに伝えたい」という持続的な関心を育てる点に特色がある。これは、関係人口を創出する初期段階として有効であると考ええる。

さらに、このような教育旅行モデルを他地域にも展開することで、地域間の学び合いや、地方と都市をつなぐ新しい地域循環のかたちが生まれる可能性がある。

まとめ

これは観光促進だけではなく、広域での文化継承と地域連携のモデルケースとなる。佐渡市、玄関口の新潟市、新潟県と連携を持ちながら進めてほしい。

危機感を持ち「今」行動しなければ、10年後には語り継ぐ人が不足する恐れがある。しかし、時間をかけて理解者・発信者を育てることには大きな価値がある。

若者が地域を“自分事”としてとらえる学びの機会を地域全体で育てることが必要である。

ありがとうございました!

今回プロジェクトを企画し、運営してくださったスタッフの皆様、プロジェクトに参加した皆さま、本当にありがとうございました。